

# 芭蕉布生産の23工程



1.糸芭蕉の栽培



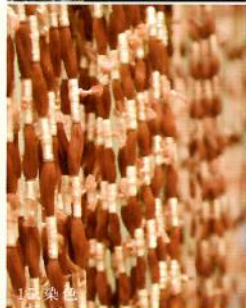
3.芋(う)炊き



6.芋(う)干し



7.チング巻き



15.染色



19.仮筵取り



19.巻き取り



22.織り



23.洗

- 1 糸芭蕉の栽培
- 2 芋剥ぎ(うーはぎ)
- 3 芋炊き(うーだき)
- 4 水洗い
- 5 芋引き(うーびき)
- 6 芋干し(うーぼし)
- 7 チング巻き
- 8 芋績み(うーらみ)
- 9 管巻き
- 10 燃り掛け
- 11 整経
- 12 煮總(にーがし)
- 13 餅糸の組み合わせ
- 14 餅結び
- 15 染色
- 16 餅解き
- 17 糸操り
- 18 仮筵通し(かりおさどうし)
- 19 巻き取り
- 20 粽統通し(ふええーどうし)
- 21 箴通し(おさどうし)
- 22 織り
- 23 洗濯

大宜味村  
喜如嘉

沖縄

●那覇



喜如嘉芭蕉布事業協同組合  
〒905-1303 沖縄県大宜味村字喜如嘉454番地  
TEL/FAX.0980-44-3033



喜如嘉芭蕉布事業協同組合

# 大宜味村

## 喜如嘉の芭蕉布

国指定 重要無形文化財(総合指定)  
経済産業大臣指定 伝統的工芸品



# 喜如嘉

自然が育んだ、風をまとう布、  
喜如嘉の芭蕉布

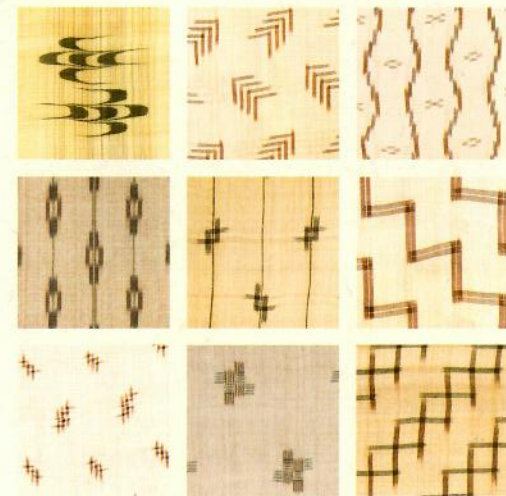
芭蕉には、真紅の花をつける花芭蕉と、美味をはこる実芭蕉、そして繊維の取れる糸芭蕉の3種類があります。この多年生草木科の糸芭蕉から作られる織り物が、昔から沖縄の人々に親しまれてきた芭蕉布です。

芭蕉布の歴史はかなり古く、13世紀頃からと言われ、首里王府の御用布をはじめとして、庶民の衣生活には欠く事のできないものでした。しかし、全島各地に見られた芭蕉布も、戦後はしだいに少なくなり、今日では昔から山原芭蕉として知られた喜如嘉の村だけにその伝統が受け継がれております。

芭蕉布に用いられる糸、染料などはすべて沖縄現地にある自然のものを利用し、緋括りは「手結」といって古い手法を守り絵図は使用されておられません。

芭蕉布があって初めて沖縄の夏がいつそう夏らしくなると言われる程、そのひんやりとした肌ざわりと風通しのよさは、広く夏衣として愛されております。

喜如嘉の芭蕉布は、1974年に国の無形重要文化財として、喜如嘉の芭蕉布保存会が保持団体の認定を受けました。保存会の代表である平良敏子は、2000年に「人間国宝」として広く知られる重要無形文化財保持者として認定されています。



糸芭蕉

平良敏子